

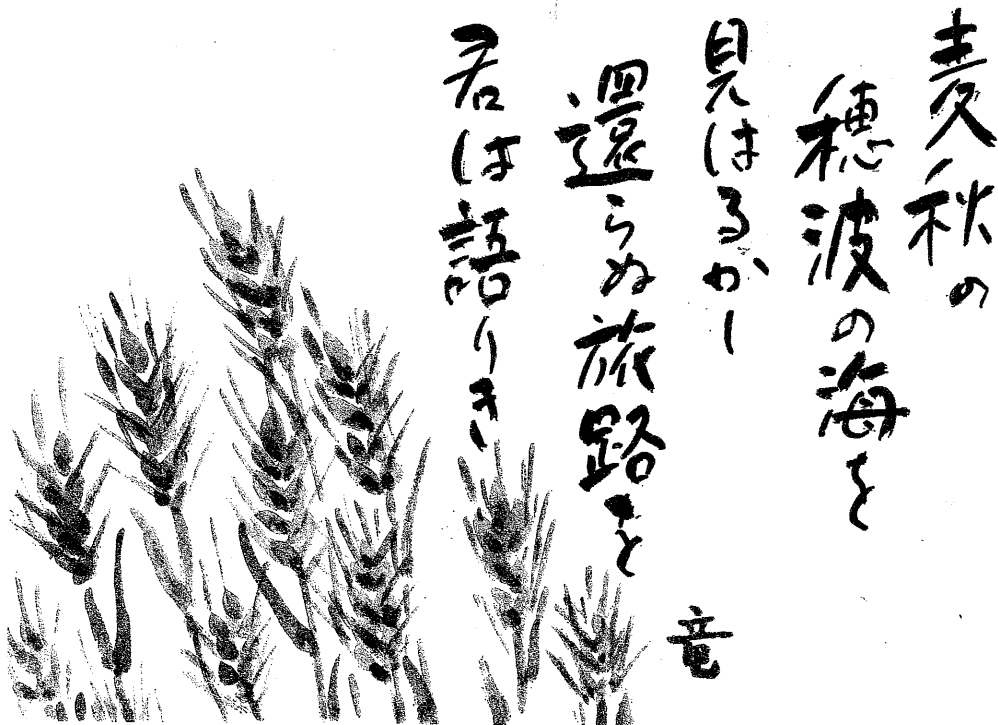
オリーブの樹

第129号

2015年5月17日

شجرة الزيتون

早期釈放！ 重刑策動をはね返し、重信さんを支えていこう！



目次

- P 2 リッタ闘争の5月に——更なるパレスチナ連帯を！ 重信房子
- P 4 3月4月の歌 重信房子
- P 5 独居より 重信房子
- P12 安倍中東外交とイスラエル 重信房子
- P17 高浜原発運転差止め仮処分決定に拍手をおくる 森本忠紀
- P19 幻滅の民主党 辻邦
- P20 花と闘い 重信房子

重信房子さんを支える会

リッダ闘争の5月に——更なるパレスチナ連帯を！

リッダ闘争から43年目の5月を迎えています。パレスチナに対するイスラエルの国家犯罪は留まるどころを知らません。「去年の夏」のイスラエルの犯罪は今も続いています。

2014年7月初め、パレスチナでは16歳のパレスチナの少年がユダヤ人入植者たちによって拉致され、焼き殺されました。この葬儀を契機にパレスチナ人の抗議は全土に広がり、ガザ地区からもロケットが発射されました。イスラエル政府は「自衛」と称してガザへの空爆を開始。連日の空爆が続きました。こうしたイスラエルの犯罪と時を同じくしてカリフ制イスラム国（IS）が登場しました。そして7月初め「サイクスピコを葬る」とカリフを名乗るバグダーディーが宣言しました。

欧米諸国は、イスラエルの国家犯罪には有効な行動を起こさなかった一方で、にわかにISに危機感を持ち、IS空爆に乗り出しました。アラブの二つの地域で、イスラエルと米国の空爆にアラブ人が殺されている現実をアラブの人々はどんな思いで捉えたのでしょうか。

8月26日、2ヵ月近いイスラエルによる空爆に耐えたガザの人々。イスラエルとハマスの間で停戦するまでの間、ガザでは2,143人の住民が殺され、そのうち、子ども501人、女性257人を含む民間人は1,473人という無差別虐殺でした。負傷者は子ども・女性・高齢者らが過半数で、合計16,100人を超え、家を破壊され住むところを失った人は10万人を超えるというひどいものでした。

ネタニヤフ首相は9月国連総会で「ハマスはISISであり、ISISはハマスである」と「自衛」を強弁し、「イスラエルは現代イスラム主義運動から西側を守る効果的城壁だ」と売り込み、ガザ空爆を正当化してみせました。

ハイファ大学で教えていたユダヤ人の社会学者イラン・パペは、その著書「パレスチナの民族浄化」の中で「パレスチナ人に対する民族浄化は、パレスチナの地にユダヤ人国家を創るといふシオニストプロジェクトに必然的かつ本質的に内包されていたものだ」と述べています。

「多民族国家」イスラエルの現実を認めず「ユダヤ国家」とするために不断に周期的に民族浄化が行われています。追放、虐殺、文化的圧殺の数々……。世界がISに注目し翻弄される中で、2015年3月現在、パレスチナの空爆被害は置き去りにされています。ガザでは、今も11万人が避難生活を余儀なくされ、国連パレスチナ難民救済機関（UNRWA）によると、昨年10月カイロで「ガザ復興国際会議」が開かれ、世界各地から54億ドル（6,400億円）の支援が約束されながら、支払われたのは一割に過ぎないというのです。しかも復興に乏しい国際支援に加えて、イスラエルが2007年来実施している「経済封鎖」のせいで必要な資材も届かないとのこと。空爆によって96,000戸が破壊され、生活再建も滞り、人口180万人のガザで、失業率は45%にのぼり、そのため、半数以上が食糧援助を受ける生活を余儀なくされています。「人道問題」としての復興ではなく、「人権問題」として「占領支配」、「国際法違反」を国際社会が取り組むべき事柄です。

パレスチナはハマスとファタハの矛盾を持ちながらも、PLOとして、あるいは自治政府として、国際社会に、イスラエルの国家犯罪を訴え続けてきました。昨年12月30日には、国連安保理に、イスラエルの2017年までのパレスチナ領土からの撤退決議案の採択を求

めましたが、否決されました。そのため、「我々が受けた損害に抗議したい。それを国際機関に求める」として、2015年1月1日パレスチナの国際刑事裁判所加盟を申請しました。2012年の国連総会で「パレスチナをオブザーバー国家として認める決議」が採択されたことを受けて、国際社会に「パレスチナ独立国家」承認を認める活動の一環でもあります。

また、パレスチナのNGOによって始まった「BDS運動」は、そうした国際化と連動してパレスチナと世界各地を結ぶ連帯運動として広がり、日本でも行われています。これは国際法に反してパレスチナの地に入植活動を続けるイスラエルとその入植地で作られる製品やその企業をボイコット制裁する運動です。BDSとは、Boycot Divestment Sanctionを意味し、「ソーダストーム」（炭酸水製造機メーカー）に対する「BDSキャンペーン」は世界各地に広がりました。日本でもこの商品を販売しているヨドバシカメラに対して、抗議行動が行われてきました。大阪では、3月30日の「パレスチナ土地の日」には、イスラエルに殺されたガザの2,200人を示すべく2,200センチの横断幕に抗議を示して、ヨドバシカメラの前に立ちました。2014年1月からEUはBDS運動を受けて、占領地を拠点とするイスラエルの会社や団体に対して、資金援助や投資から除外する「EUガイドライン」を発効しました。「パレスチナの入植地は国際法違反であり、入植地を利するような金融取引、投資調達などを行うことは法的リスクを伴う」と、警告しました。その結果、民間ばかりか政府機関でも、たとえば、年金基金の投資対象のうち、イスラエルの該当企業から資金引き上げを行っています。

リッダ闘争後の70年代、PLOが国連にオブザーバー席を得た後、国連総会は当時の南アフリカのアパルトヘイト同様に「シオニズムは人種差別主義である」と、非難決議しました。イスラエル国よりもオブザーバーPLOを承認する国の方が多かった時代です。ソ連東欧崩壊、湾岸戦争を経て、91年アメリカ政府の音頭で、その「シオニズム非難決議」すら撤回されていきました。今、ネタニヤフ シオニズムの人種主義は、かつてよりも露です。そのため、占領、入植地の国際法違反に対して「BDS運動」を拡げることは、南アのアパルトヘイトを打ち破った流れのように効力を持って広がっています。

ところが、イスラエル旗と日の丸を背に、ネタニヤフ首相と「テロとの闘い」を宣言した安倍首相ははっきりとイスラエルの側に立つことを示していました。その上、「不買運動のような当事者の一方をボイコットするような動きには明確に反対する」と述べて、イスラエルの国際法違反を許し、パレスチナの「国際刑事裁判所加盟反対」同様に、この件でもEUと一線を画し、米・イスラエル同盟の側に立っています。現在の中東の混迷の歴史的根拠は「イスラエル建国」によるパレスチナ・アラブ占領とパレスチナ人虐殺、民族浄化が公正に正されずに来たためです。この根本的問題を放置して、軍事的にISを叩いても何も問題は解決されません。空爆によって殺され被災しているのは、アラブの住民たちです。返って、反米反撃闘争を煽ることになっています。なぜなら、これまで謝罪も反省もせずに続いてきた中東に対する欧米の不公正な介入への怒りが人々を駆り立てているからです。

国際社会は、中東混迷の根本である「イスラエル問題」に今こそ取り組み、解決すべきです。かつての南ア、そしてISの宗派差別暴力支配と同質のイスラエル政府に対して実行力のある包囲が国際社会によってなされる必要があります。占領と人種差別、民族浄化を終わらせるために、人民連帯はさらに効力のある「BDS運動」などの国際連帯が必要です。

ナクバのこの67年目の5月、リッダ戦士やドクトーラを嚆矢とする日本のパレスチナ連帯がさらに広く育つことを願ってやみません。

重信 房子

三月四月の歌

重信 房子

八王子の病棟まで警視庁の捜索が来ました

重信 房子

ジャズミンを胸ポケットにひよいと挿し小銃肩に戦場の君
 パレスチナガザの被害も復旧も叶わぬままにまたナクバの日来る
 空の青映して可憐なイヌフグリ蟻の棲家の真中に咲きおり
 ジャカラランダ紫に染むベイルート「連赤」知りて泣き泣き歩みし
 ドクトーラの愛し尽くせしヤルムークイスラム国に制圧されし
 白梅は香り放ちて散りはじむ新月の深夜雪降る如く
 欲しいまま咲き満ち満ちてその刹那幽けく叫び散華芍薬
 春の修羅服まろわぬ意志に懲らしめか任意拒めば強制捜査
 春の庭桃開き咲くと友の文ひな祭りの夕独房葎やぐ



独居より 3月11日~5月4日

3月11日 今日3・11。脱原発の誓いの日にしなければ! と思います。また、ちょうど3・10は1945年の東京大空襲の日。当時の空襲で、20万人以上の方が全国で殺され、更にヒロシマ、ナガサキで殺され……。3・11は脱原発と共に3・10の反戦の誓いも、これからの日本の道として反省基点になる日です。メルケル首相の訪日によって、「3・11フクシマ」を直視して「脱原発」を決めたドイツ。そして自らの歴史に向き合って真摯に謝罪してきたことで現在のあるドイツが、鮮明に日本と対比されてしまいました。「原発再稼働」「原発輸出」を企み、一向に自らの歴史に向き合おうとしない安倍首相。お上にしっかりと反対する意志を持つことの大切さもむずかしさも、沖縄の人と共に立つことによって克服していきたいと思うこのごろ。住民の意志が団結できるのは、それだけ苦しめられ、裏切られ、自分たちの考えをそのたびに検証し、育ててきたからだだと思います。パレスチナもそうです。デジカメ歌人から「啓誓」のお便り頂きました。“空風に自転車を漕ぐ女高生マフラー深く巻き睨みて過ぎる”“泥付きの大根を下げて頭を下げて行き交う顔を寒の陽が照らす”季節が伝わる二首です。桃の節句の写真もいいですね。ありがとうございます。「いよいよ戦争の出来る国からする国へ一挙に進みそうな気がしてなりません。とても淋しいです」と声が聞こえてきます。

3月12日 午前中に主治医診察。前に診断された大腸の新しい「粘膜下腫瘍(SMT)」について質問しました。「SMT」は「GIST」(粘膜下癌)とどう違うのか? という点です。「SMTは、粘膜下に脂肪とか血腫などが一般的だが、それがもりあがって見えるもの。それが、癌か何かを特定することはむずかしい。ある程度大きくなるまで経過観察が必要」とのこと。「胃と違って腸は薄いので、摘出には開腹手術が必要ですか」と尋ねると、「それは外科の判断によりますが、今のところはまだ小さく、そこまで行っていないので経過観察するしかない。」GISTかどうかはわからないようです。CVポートのフラッシュもやりました。

その後運動場へ。直径70~30センチの5本の桜の木が、切株に変わっていました。もっと太い幹の10本の老木は、当面伐採を逃れたのでしょう。この春、満開に咲くことはできそうです。今、塀の外に白梅満開! 良い香りが満ちています。

3月13日 快晴。今日はこの八王子の病棟まで、警視庁の捜索が来ました。「ガサ入れ」が来るかもしれないと想定はしていましたが、「調べようとしたら権力下でいつでも私のことは真裸にできるので、何も対策立てる程ではないか……」と考えました。JRA解散後、調べる機会がなかったので、この機会に私の交友関係を調べようとの魂胆なら来るかな、という感じでした。

それが来たのです。午後2時過ぎ、安静時間中、女性刑務官から「ちょっと面会室へ来てください」とのこと。すぐそばの面会室に行くと、座って待つよう指示。処遇首席と5~6人登場。私服が4人居ます。ここまでやっぱりガサ入れに来たな……と、分かりました。起立・礼の挨拶のあと、処遇首席から「今日は警視庁の方があなたを取り調べに来ています」と開口。「強制ですか?」と私。「強制です」と処遇首席。警視庁の4人のチームです。「書類を見せてください」と見せてもらい、読みました。捜索は城崎勉の偽造有印公文書行使容疑の件で、重信房子の居室捜索と書かれています。

何を持っていくのか監視したいので、「捜査に立ち会います」と立会人として署名しました。2時28分の執行を確認。

その後、私の房に移動し、4人が捜査開始。私物の中からノート3冊メモ一式住所記録一部を選び出していました。どれも捜査容疑とは関係ないものであり、治療記録が書かれているので、もっていかれては困ると抗議し、訴え、やり取りの結果、ノートらは持っていかれませんでした。住所記録は押収されてしまいました。もちろん調べようと思えば、ここ八王子に通信記録があります。住所記録には友人の交信申告した名やジャーナリス地、出版社、誌紙団体など住所が載っています。今後、嫌がらせ、悪用されないか気がかりです。支えてくださった方々

オリーブの樹 第129号

に迷惑をかけることになるかもしれないことにお詫びします。終了は3時30分、約一時間でした。

他の旧友たちもあちこちで任意調べや家宅捜索が行われていることでしょう。このチャンスにと、ちょうど3月年度末に成果を嵩上げしようと、公安たちは一斉に「日本赤軍」データを集めるでしょう。その結果、唯友情で励ましてくれている友人たちに、権力のいやがらせが更に広がることはないようにと願わずにはいられません。

また、城崎さん自身に対しても厳しく不当な弾圧がかけられていると思われまふ。「IS」と「反テロ」と結びつけ、より激罰を企てていくのではないか……？ 私の公判でもちよほど2001年、9・11事件「反テロ戦争」が巧みに利用されました。70年代のパレスチナPFLPの闘いをアルカイダのテロと結び付けてフレームアップ「反テロ」重刑を檢察は企てたのです。安倍政権下、「異端・異論排除」の全体主義的横暴は益々深まっていることでしょう。反省と共にいろいろ考えさせられる夜です。

とにかく何はともあれ、住所録をとられたこと、みなさんにお詫びします。

3月15日 週末はうすぐもり続きです。今日は母の命日。2005年、白梅の好きな母は、メイに小さな「おひなさま」を贈り祝い、そして少しして逝きました。鏡を見て母と似てきた自分をみつめています。窓の外、緑が切り株のまわりに萌えはじめています

3月16日 朝、週明けに米澤さんの3月11日付「3・11震災の日に」と送って下さったお便り受け取りました。昨年は40回も「ヒロシマ」の体験講話や、英国・インドのTV取材、「ノーベース・沖縄」とつながる京都府民の会の立ち上げ、丹後半島の米軍基地・メバンドレーダー撤去闘争と、益々多忙で走り回っていますね。2月も辺野古でキャンプシュワブ座り込み、大浦湾埋め立て反対闘争に参加し、50年ぶりに機動隊に突き飛ばされてふっとんだとのこと。若い友人たちと共にどんどんパワーが広がっていますね。4月にまた、沖縄で「ぼくは満員電車で原爆を浴びた」を語り、交流すること。米澤さんのお便りに、先週末までの取り調べ捜索のネガティブ気分が払拭されます！の句と共に。それからまた、今日ガサ入れのいるか……と考えてしまいます。気持ちを春に向けていろいろ考えたい。

3月19日 今日、運動場に行く坂道の端に土筆が3本ニョッキと出ていました。春です。思わず上を向いて見回すと、薄曇りながら白梅が堀の外にあちこち満開！ いい香りが風に乗ってきます。こんな香りを受けながらのウォーキングはやはり楽しいです。どこにいても。

午後、「警視庁から人が見えて押収品の返却をするとのことで、本部横へ行くように」と女性刑務官の指示。「強制でないなら、わざわざ顔を合わせたくないのですが……」と言うと、問い合わせてくれました。そして処遇首席が見えて代わって還付を受けるが、私自身の書名指印必要とのことで、指示に従って書類に書名指印しました。

その後ちょうど姉の面会。「カイロの差し入れを」と頼んだので、「今日手紙が着いて、あわてて来たのよ」と言われて、私の獄捜索を記した手紙が17日発信、19日着で、ちょうど捜索からは一週間の時差になってしまったのを理解。

夕方、「オリーブの樹」128号受け取りました。表紙のふさのとう！ 柔らかい春の印。それにおいしそうです。自宅のベランダの下に咲いていたなんてラッキーな春の兆しでは？ 表紙に3・11の一首選んでくださいました。表紙裏のスダチも香ります。短歌に一つ誤植があります。「聴力の検査向き合う我が耳は斥候のごとく鋭くかまえる」日誌は「IS事件」など、この入力作業の大変さに本当に申し訳なく、ありがたいことです。感謝ばかりですが、協力して下さる友人がさらに居るといいのですが……。読み手にとってもっと読みやすいように減らすとか、中東情勢を別個に書くなどどうでしょう。意見ありましたらアドバイスを下さい。さつきの花がもう咲いていたなんて、絵は「ツイート」と共に楽しんでいます。忠紀さんの「戦争する国差別煽る国嘘つく国暴力の国」大きな危惧実感します。すぎなさんの絵、カラーも頂きましたが、民族衣装カラーでないのが残念！ すごくプロのような絵です。ありがとう！ ゆっくり読み返したいです。

3月21日 春分の日。彼岸に気持ちを改める意味でも3月13日の件についてお詫びいたします。すでに3月13日の日誌でお詫び方々報告致しましたが改めて記します。

3月2日警視庁よりの任意調べ要請。3月9日検察庁による任意調べ要請が八王子医療刑務所に居

る私のもとに伝えられました。私はそれらの要請を拒否しました。これは米国より送還され逮捕されている城崎勉さんの容疑に関してのものと思われたからです。

その後3月13日の私の独房に警視庁より強制捜査が入りました。「城崎勉の偽造有印公文書行使容疑」により「八王子医療刑務所内の重信房子の居室捜索」という捜索令状です。任意調べに応じなかったことに対する懲罰的行為であり、私の交流関係などをこの機会に掌握しようとの企みと思われる。もとより私の生活状況、交流、通信記録はすべて刑務所側に把握されていて、いつでも掌握は可能なはずで。

捜索チームは4人。約一時間にわたって房内の私物を調べていました。私は立会人として署名し、調べに立ち会いました。彼らは私物の中からノート3冊、メモ一式、住所記録一部の5点を選び出しました。ノートもすべて捜索容疑と関係がなく治療記録が記されており困るのだと抗議説明しました。しかし結局住所記録だけは押収されてしまいました。特殊な環境にあるとはいえ、名前、住所を直接警察側に知られる結果をつくり申し訳ありません。改めてお詫びします。そして春に向かって心をリセットし前を向いて進みます。

不当な拘束下、意気高く闘っているであろう城崎さんに心からエールを送り、健康と健闘を祈ります。

3月25日 窓の遠くの塀の外の桜並木えんじ色になっています。無数のガクの色でしょう。これから、さらに蕾が膨らみ、白く花弁がこぼれ出てくるころです。あと何日でしょう。

今日は「回覧」で保管私物の総量規制にはみ出していることがないよう、きちんと私物を整理するようにと指示が伝えられました。届く書籍を読み、宅送や早く回転させていても増えたりします。冬の厚手の下着私物が場所もとるので、なかなか大変です。社会は、3月年度末整理しつつ、4月新年度を迎えるのを改めて実感します。荷物の整理も含めて、自分も学習計画など立てないと！と思う3月です。

円覚寺の桜がもう咲き始めたかとK代さん写真送ってくださって感謝！ 彼は山桜が好きでしたか。もうすぐまた命日。今年は七回忌でしょうか。なつかしいあなたに会いに彼岸から戻ってくるでしょう。「沖縄県知事ががんばっているのに合わせて、国民のNO!の意見を」同感です。

3月27日 昨日はグラウンドに行く途中の坂道で土筆が10本以上もニョッキニョッキ！ タンポポ一株も咲いていました。いぬふぐり、なずなもきれいです。塀の外の桜並木の一本から早くも白い花がいくつか咲き始めました。このグラウンドにある周囲2メートル程の老木も、明日にでも蕾を割って白い花が零れそうです。春はやはり心踊ります。

友人からISに関してこんなお便り。

「オリーブの樹」128号読みました。ISに関する論評は的確でよく理解できます。僕はつくづく思うのですがこれはかつて赤軍派が提唱した『世界同時革命』『世界革命戦争』ではないかと。赤軍派が夢想していた世界革命戦争はISが始めてしまったようです。70年代以降左派が退潮していく過程で、抑圧された人々の側に立って武器を取ったのがイスラム勢力。「アラブの春」が欧米の画策で民族派（世俗派）政権が次々と倒され内戦化していくなかで、イスラムからより過激な徹底抗戦派が登場したのは必然です。日本の69年の赤軍派も規模こそ違え心情的には全く同じだったのでは？ と思っています……。」

うーん、闘っているものの「使命感」とか情熱、主観的正義の心情は赤軍派に限らず共通するものがあるかもしれません。でもまったく赤軍派の「世界革命戦争」とはちがいますよ。欧米の介入、アラブ権力者の介入で「アラブの春」が権力闘争に歪曲されISが勢力を拡大していく機会が生まれました。欧米とサウジの金が、武器がISを育てたのです。生存の闘争に晒された住民をバックにしながらISは積極的に「宗派闘争」を扇動してきました。（これがアルカイダやヌスラ戦線と分裂する原因です。）

それでも住民の憤怒を体現しています。赤軍派には人民がいませんでした。「武装プロレタリアート」という主観的願望の観念でした。比較するのも憚られる程深刻な違いです。でも今のグローバル世界の若者たちが味わっている不満と怒りは共通するものがあると思います。

ピケティの指摘した「世襲社会に戻っている」というのは財産相続の意味で使われていたけど、照応して「負の世襲社会にも戻って」います。欧州国籍を持ちながら差別されるイスラーム、移民の人々の子供も達はISの希望に自分ののはけ口、希望を重ねているでしょう。格差、生きづらさは世界共通し、その矛盾の激しいところほどラジカルにならざるを得ないのですね。赤軍派をアナロジーせずとも……

と思いましたよ。

3月29日 夕方から雨が窓を叩いています。塀の外の桜はあつという間に花盛りです。

今日は「私物総量規制」の通達があったので、私物総点検で何とか少なくしようと書類を減らしています。廃棄や宅下げのため、ノートにメモ化したりして週末は終わりそうです。倍の私物保管スペースが欲しい……。

3月30日 土地の日。パレスチナの闘いが目に浮かびます。友人たちはラマツで、ガザで、ペイルートで土地の日の誓いをしているところです。

今日は「はじめまして。すみません、ただのファンレターです」という手紙頂きました。ファンレターではなく連帯の便りでした。62歳の女性、偶然古本屋に処分に出そうと手にした「狼煙を見よ」と「団結をめざして」を読んだようです。「読んでびっくり『団結をめざして』鳥肌立つ程（本当に久しぶり）感動してしまい……」とのお便り。ずっと三里塚闘争に関わり看護師から57歳で博士号を取得し、カウンセラーなど働きつつ海外ボランティアも考えていたり。こちらこそ連帯の握手を！です。

4月1日 今日は主治医診察で、4月の血液検査を明日行うよう指示されました。体調は良好と伝えCVポートフラッシュ。

係官より「来週観桜会をやります」とのこと。来週4月8日に花祭法要もあります。

Mさんありがとうございます。「この1月～3月、ISの人質処刑作戦を利用した政府の『反テロ』弾圧、城崎さん逮捕もキャンペーン材料として強化されました。今さら医療刑務所の重信さんの居室ガサ入れしても『収獲』なんてないはずですが、これも『反テロ』キャンペーンの一つであり、公安の『お仕事』作りでしょう。」まったく同感です。予算獲得でもありますね。3月29日の街頭アピール行動の写真は楽しみに待ちます。明日か明後日交付されるでしょう。

4月3日 昨日は、グラウンドに出て、思いきり満開の桜をながめました。塀の外の桜並木は満開。グラウンドの西側10本の桜は八分咲きの見頃。ベンチに座ると真上に桜の枝が天蓋の様に！ふきのとう二株とそれにタンポポもたくさん、土筆も数えき

れないくらい。いぬぶぐりも、春です。

今日、Mさんの送って下さった写真交付、受けました。梅田ヨドバシカメラビル前「ボイコット！アパルトヘイト国家イスラエル」の日本語と英語の大きな字！車道に面して大アピールです。3月29日の大阪街道アピール行動の写真です。「イスラエルボイコットの市民運動ですが、昨年夏のガザ攻撃で殺された人数約2,200人にちなんで、約2,200cm、つまり22メートルの横断幕が張られました。下の部分に犠牲者の名前をわかる限り記されていました」とMさん。この日、「土地の日」3・30に連帯して、東京でも関西でも集いがありましたね。この写真パレスチナの人々にSNSで届いていますか？きつと喜びます。丁度ガザでパレスチナから3・11連帯行動を行った後です。

今日の新聞ISとパレスチナ治安部隊の攻防後、シリアのダマスカス南のパレスチナ難民キャンプ「ヤルムーク」がISに制圧されたと出ています。一つの「街」だった18万人のパレスチナ住民の「ヤルムーク」は、今では一割の1万8千人が住んでいたとのこと。パレスチナの人々の何重もの苦難に言葉もありません。イラクでもシリアでも米軍中心に、IS・アルカイダ系イスラーム戦線との攻防は激化。住民たちの被害は増加の一途。

丁度今日の新聞で「イラク派遣の教訓」という「オピニオン」記事で当時自民党だった山崎拓氏が率直に語っています。これを「個人の意見」とせず、「政府の見解」として「国会決議」すべきです。2003年2月、パウエル国務長官と米大使公邸で、自民・公明・保守新党3幹事長が会い、説得された。「イラクに大量破壊兵器がある。日本も同調するよう小泉首相を説得してくれ」と。「私たちはその主張を鵜のみにし、小泉首相に『ゴーサインすべきだ』と進言した」。小泉首相は「イラク戦争を支持する」と伝えた。「結果論から言えば大量破壊兵器があると信じたのは間違いでした。米国の圧力というよりも、米国追随主義の典型です。日本の政治家に叩き込まれた『日米同盟堅持』という外交理念によるものが大きい。『対米コンプレックス』の表れだったかもしれません。イラク戦争という力の裁きの結果、ISという鬼子が生まれたとも言えます。私は今、当時の判断に対する歴史の審判を受けているようにも思える。ISの製造責任は米国であり、間接責任は小泉首相にも私にもあると言えるからです」と述べて、「安倍政権の姿勢には強い危機感を持ちます。(中略)首相

の『我が軍』発言は、国家のために軍隊は血を流すものだという軍国主義を肯定するニュアンスさえ感じる。『タブーへの挑戦』という政治家としての美学」と批判。米国の番犬として自衛隊が巻き込まれるのはばかげている。『日本は関係しない』という方がよっぽどまし」などと述べています。この反省を「イラク戦争の教訓」として、もっときちんと国会で論議すべきです。

4月6日 快晴の獄の庭には満開の桜が少しもう散り始めました。風が強い日。ラジオでは五月陽気とのこと。イランに核開発能力を制限する、イランと6か国の協議の「枠組み」で合意したとのこと。6月末の最終合意ができるのか？と疑問です。1月末の上院の軍事委員会に証人として出席したキッシンジャーが述べていたのは、イランの核保有能力を「阻止する立場」が、いつの間にかイランの能力の「範囲」をめぐる本質的には、米イランの二国間交渉となっている、こうしたアプローチは「核拡散防止」から「拡散管理」へと向かうだろうと述べています。つまり、核否定が出来ない交渉では、サウジアラビアなどの核保有が広がるとみているのでしょう。イスラエルは、中東での核独占は糾弾もされず、逆にネタニヤフは、イランと合意をめざす米政権を上から目線で批判しています。こうした環境では「6月合意」阻止勢力が更に暗躍しそう。オバマ政権、IS対決には、イラクにイラン革命防衛隊が指揮をとっているのも黙認し、イエメンでは、サウジから反フーシ派空爆を黙認し、アメリカの中東政策は冷戦後、ことにブッシュ（子）時代から破産したままです。

4月9日 寒いため3月以来のスチームが入りました。10時半、グラウンド運動へ。塀の外の桜は散り、一週間前ひとつも開いていなかったこちらの桜ももう散っている木も……。三本はちょっと散り始めてきれいな盛り。今年は散るのが早いです。もうタンポポ、春紫苑もあちこち咲いて春だけどとつても寒い！

午後は「観桜会」。12時から13時10分の予定でしたが、せっかくの一大イベントに、寒すぎ。散る花の下で風流に絵や句を読むことはできません。お弁当を食べて花を見上げながら早めに切り上げとなりました。でも丁度盛りを過ぎて散るソメイヨシノと山桜。盛りの枝葉桜。つぼみが開きそうな八重

桜と、きれいな桜を見、さわって満足！「桜餅「の匂い！」と私が言うと「どれどれ」とみなで垂れた枝の匂いをかいで、「いい匂い！」と寒いけど楽しんでいました。花は心が豊かになります。

4月10日 寒い日続きで残りのカイロも、もう使い切ってしまいました。

デジカメ歌人からは、満開の高瀬川の桜の写真、木屋町四条下るのあたり。70年の京都高瀬川の桜を見たのがそのあたりか！？と私も思い出しつつ「清明」の便りを見えています。“農道にヤンマーキセキ行き交うて田起こし始まる通勤車ウロウロ”

ちょうど資料を読んでいたMさんやI子さんのイスラエルボイコットの「BDS運動」に、EUは広く理解を示し、各地で取り組んでいるのに、日本政府は「反対」表明していたのですね。（「国際法違反」の入植地・入植活動に関係している企業、製品のBボイコット、投資中止ひきあげDディヴェスメント、制裁Sサンクション）の活動。EUは今年1月1日から占領地を拠点とするイスラエル組織への資金援助対象から除外するEUガイドライン発行で、各国がBDSを拡大している）安倍首相は中東訪問に合わせて1/19のイスラエル紙「イデオト・アハロノード」に寄稿し「不買運動のような当事者の一方をボイコットするような動きには明確に反対する」と述べているとのこと。一般論化し、またかつての「アラブボイコット」で恩恵を受けてきた日本外交を「国際法違反」を無視して、イスラエル側にすり寄っているのを知り、唾然です。ネタニヤフと「テロとの闘い」を合唱する危険は細部まで浸透中です。

4月15日 まだ寒く風が強い日。グラウンドにある最後の花盛りの桜が風に舞って、窓のところまで花卉を届けています。もう花は終章です。

今日の新聞には一面に「高浜再稼働認めず、即時差止め、初の仮処分「新基準、合理性欠く」と福井地裁樋口裁判長判決。14日、「さわさわ」の友人たちも活動していたこの住民の高浜原発再稼働差止めの申し立ては勝利しました。樋口裁判長は大飯再稼働で原発の運転差止めを命じる判決を出し、その判決文の格調高かったこと。改めて思い返しつつ、よかった……！としみじみ。申立人副代表の水戸喜世子さんは、巖さんの遺影を掲げて「喜んでくれていると思う」と声を振るわせたと新聞にあります。大間原発、柏崎刈羽原発など、全国の再稼働差止めを

求める住民の願いにつながる勝利。友人たちの検討に連帯！ ちょうど夕方、Tさんから4月13日付のお便り。14日の福井地裁判決にSさんと行くとのこと。今日の新聞の判決を喜ぶ写真をまた見直してTさん居ないか？！と探してみました。Tさんら、京都の桜も満開があつという間に散りましたか？ここ八王子も早かったです。

Tさん、京都の選挙の結果も、教えて下さってありがとうございます。今回の市民派の票がこれからのスタートライン。地域とつながって広がって欲しいです。「アベイズム」と「維新」の共同で改憲のあやしい戦略が構想されている昨今、何とせよ「反改憲」の流れができないものか……と。

U君も投票率5.0%以下なんて野党第一党がまいの上、選択肢がないので、心ある人は棄権している、明確に対抗軸を示して日共が少し伸びたのは当然でもあり、救いでもあると書いています。選挙は決して民意を反映するものではないのに、民意として権力を補完するので、選挙の度にうんざり、「選挙と裁判所は民主主義の落とし穴ではないでしょうか？」と。その気持はわかるけどやっぱり変え続けないとね……。みんな同様の想いでしょう。

今日夕食前、主治医診察。4月2日の血液検査の結果。正常値の範囲に留まったこと伝えてくれました。

4月18日 昨日は「IS」関連の資料送って下さって感謝。ちょうど、作業しているのに役立ってありがたいことです。さらによろしく！

中東の「IS掃討作戦」は激しさを増しているようです。テクリートは3月の米空爆後、イラン革命防衛隊とイラクシーア派民兵プラスイラク軍で制圧。と言っても、逆にスンナ派住民は怒りを増大させているでしょう。80年代のイラク・イラン戦争の遺恨は双方にあり、イラン革命防衛隊が当時のイラク軍幹部を指名追撃すれば、反攻勢にスンナ派住民がISに呼応して立ち上がるといった具合でしょう。サダム・フセイン時代のナンバー2でサダム処刑後、バース党首となり、ISに共同してきたイザト・イブラヒム・アルドゥーリも戦死したとのニュース。

また、アイマン・ザワヒリが各国のアルカイダ支部に「忠誠を解く」らしいとのニュース資料もあります。ISのアルバクダディへの忠誠に「統一」を考えてのことか。ザワヒリは、「各国のアルカイダの

インターナショナル」の「国際化」を構想し、アルバクダディはグローバル化「イスラム国の州」として、各地域を忠誠と認証の関係で広げているので、ザワヒリが辞退すれば、ISへの一本化した武装宗派州が広がることになります。空爆やシーア派の攻撃戦争は、住民を殺害する分、益々戦乱を拡大していています。

4月20日 Kさん、七回忌法要が無事済んだのですね。彼は人を魅きつける力のある人でしたので、友人たちや仕事の仲間も来て下さったのですね。また、来れなくても思い出してくれている人々も居るでしょう。思い切り七回忌に尽くしたことそれはあなたの生きる力をまた強化するでしょう。

4月21日 大雨、春嵐の後、今日はツツジがけたたましい。赤で咲き、黄色のタンポポと共に春を演出しています。

CHさん、Tさんら共々。4月14日福井地裁に行かれたのですね。その感動と興奮で歌が次々と零れ出て、なかなか寝られなかったとのこと。14日にちなんだ14首送っていただきました。どれもみな臨場感あふれるいい歌！「この目にて歴史の瞬間見届けん」福井地裁に人々寄り来「雨の降る福井地裁の静寂を破り大きな歌声拍手」「フクシマの人々にまず伝えし原発裁く命令下る」「原発を作り止めぬ愚かしさ証し光れる樋口判決」「仲間らと福井を去りつ帰路に着く車窓に大きな黄金の落暉」喜びを共に！

4月24日 宇都宮健児弁護士が改憲勢力に対抗する「3つの課題」を示されていて（紙の爆弾5月号）深く改憲勢力がいかに戦略的に準備しているかがわかり、恐ろしいことが進行していると思わずにはいられません。第一に96条改憲挫折から本丸の9条改憲へ「国家安全保障戦略」「新防衛計画の大綱」「新中期防衛整備計画」など実体化しながら「やるなら来年の参議選後」（船田元）と考えて船いること。第二に「日本会議」の存在。日本会議は閣僚のほぼ公明をのぞく者たちがかかわり、会員3.5万人、全都道府県支部228、「日本会議国会議員懇談会」は自民、民主、維新など289名が加盟し、「地方議員連盟」は1,600人加盟、「日本国民会議地方議連」メンバーが4割を占める県議会が15。この「日本会議」が主導する改憲多数派工作がポイント。「美し

い日本の憲法を作る会」を去年10月発足させて、16年の参議院選にむけて憲法改正賛同者1千万人署名運動を進めていること。発足時に47都道府県に「憲法改正を実現する県民の会」を設立すると決定。1千万人の根拠は改正投票をした場合、3千万票が過半数と読みその足掛かりとして1千万人署名を開始しているとのこと。戦略的な草の根戦術の改憲勢力の攻勢に、9条勢力こそ9条改憲阻止の下からの署名が問われるのでは……？と思いつつ、超える戦略と統一したすべての力の結集で正念場を主導していかないと危険です。

気付かぬうちに穀雨を過ぎ、今日のデジカメ歌人の穀雨の便りに気付かされました。鴨川沿いの植物園の横の美しい枝垂桜、歩いてみたい風景です。「八紘一宇わが軍と続き戦争法案が成立しようとし、核発電も再稼働へ動き、辺野古への移設は既成事実を積み重ねようとしています。突然の戦争でもあるのでしょうか。とても心配です。」との文。三首の短歌からこれを選びました。時節の一首。「花時雨黄のチューリップもう三日涙滴型のまま眠りたり」健康でお過ごし下さい。

4月26日 窓から見下ろすとけたたましい赤いつつじの横にピンクと白のツツジの木々が蕾をツツンと天に向けています。もうすぐ咲きそうです。三色のツツジが咲くと華やかです。街もきっと華やかにツツジがもうあちこちに咲いていますよね。

今日新聞読んでいたら市議選の結果が出ています。塩見「元赤軍派議長」と立候補の時出たのでチェックしてみました。清瀬市定員20人立候補23人。最高得票当選2,055票最低得票当選827票で塩見さんは3,19票で落選しています。地域に浸透するのはなかなか難しい。

CHさんは選挙のポスティングをしながら「何と大勢な人が世の中には住んでいることか。数字で千人と聞いても何の感慨もありませんが、家々を訪ね歩くと5.00戸といえは膨大な数の人が住んでおられるんだなど実感してそのことに圧倒されます」と書いていましたが、一票の支持を受けるのも容易ではないですね。若い人、良心的な人をどんどん押し支えていって「日本会議」を越えていかねば……としみじみ思います。「侵略はやめられませんか暮れの春」忠紀さんの句。思わず「侵略はやめられませんか暮れの春」としてしまいました。

4月28日 快晴の暖かい日。姉の面会がありました。歯科医のことなどや家族の話で短い面会は終了。

四方田先生から「民族でも国家でもなく」という本送って頂きました。感謝。

Yさんより「土曜会」の報告。ありがとう！ジュンも来ていて二次会もあったのね。楽しそうだなあ……！今月の土曜会報告で経産省前テントの現状知りました。東京地裁はテント撤去と損害賠償金2,800万円の支払いを命じていたのですね。控訴して仮執行停止の申し立てに高裁はテント撤去に500万円、損害賠償に1,700万円の補償金供託することで執行停止を決定。500万円のテント撤去分は供託したが損害賠償分の1,700万円は供託しなかった為、依然強制執行の恐れがあるとのこと。「フクシマ」の現実にテントは当然のこととして政府に異議申し立てたことに多額の負担を庶民にさせることで「合法」の名で権力は牙をむいている日本。

今日の新聞でも「日米安保条約の枠をこえる米軍支援の拡大」を規定する「日米防衛指針」に「18年ぶり改定」のトップ記事。憲法違反を既成事実で「合法」と装う危険な政権。

「4・28」のつくづくと昔の私たちの闘いの弱さの結果の今日に責任の一端を感じます。土曜会の他に盛り沢山の報告。福島子ども支援の山形の「おもいで館」ずいぶん実体化したのですね。「ソウル宣言-新たな社会的経済」も興味深い。ジュンたちの集いいなあ！

4月30日 連休に入り、快晴の空は気持ちよい。今日は屋外運動日。今日は、ベトナム戦争勝利の日だったな……。ウォーキングしながらクローバーを摘みつつ、そんなことを考えています。

新聞では安倍首相の日米会談や、米議会演説、「侵略」も「お詫び」もなく「反省」。米国に対する「付度姿勢」と、隣国に対する「強硬姿勢」の違いが妙にうきぼりにされる訪米です。「不沈空母」どころか、番犬のように、憲法の上に「米国」を置いたように、国会審議も軽視した、夏までにちゃんと安保法制やりますよと約束したり。有権者の4分の1以下で選ばれた自民党の暴走を、経済界から外務省官僚・マスコミまで、こぞって紫苑のひどい状態。マスコミ・メディアに異論を封じるような仕掛けも狭量で異常です。沖縄の人々も、我慢は限界では……。

5月1日 早くも5月。メーデーの熱気は、日本の

遠い昔の私の経験ですが、今でもきっと各地で行われているのでしょう。

「情況」社から前から頼まれていた原稿を仕上げたので今日は「民族でもなく国家でもなく」を、一気に読みました。(感想次号) 連休中は、少し学習と、たまっている楽しい本、モートンの「忘れられた花園」含めて読む時間がとれそう！5月はパレスチナにとっても沖縄にとっても大きな出発点の記念日。丁度、リッダ闘争の戦士たちが出発する頃、当時日本人会から受け取っていた日本の新聞に、沖縄のこと「祖国復帰」が大々的に連日記事になっていました。1972年の5月から43年になるのですね……。パレスチナも沖縄も、根本的な解決—占領地返還と基地撤去—は、益々遠のいて固定化されてしまったような時代になっています。原点に立ち返って今をみつめなおしていく月として5月を迎えている友人たちを思い、連帯します。

5月3日 憲法記念日。毎年のごとく、獄中で、この日は憲法を読みます。今年はとりわけ、前文そして9条をはじめとする条文を、ていねいに読み返しながらか、きつと多くの9条改憲阻止の人々が集まったのではないかと、連帯の思いです。アラブにいた1980年、私たちは、「今日の日本」という青字に白い月と黒い富士のきれいな観光本のような、分厚い一冊を発行したことがあります。その扉の論文

が「日本では奇妙にも権力が戦後一貫改憲を、そして民主左派勢力が改憲阻止という構図が続いている。日本国憲法9条をめぐる闘いである」と記しています。77年の、これまでの闘いの反省、謝罪、教訓をふまえて9条改憲をめぐる攻防こそ基本にと、日本問題についてとらえていたからです。その頃また、「中東非核化ノーモアヒロシマ女性会議」などもやっていました。5月はとりわけパレスチナ・アラブが思われます。リッダ闘争と共にそんなことを思い返し、当時の仲間たちのことも考えつつの憲法記念日です。

5月4日 今日の新聞は、昨日の憲法記念日、横浜での「平和と命と人権を！ 5.3憲法集会」3万人の人々の様子が載っています。今年は、集会が一本化され、呼びかけ人80歳の大江健三郎登壇の他、集会には、民主、共産、社民、生活の4野党党首も出席したとのこと。一方、改憲派「美しい日本の憲法をつくる国民会議」も東京で900人の集い。草の根戦術の「日本会議」がこの組織を支えています。草の根、人々の意志を結ぶ闘いは、9条改憲阻止の側こそ！ 参議選に「大勝利」して改憲を謀る自民党の魂胆。しかも第1次改憲は、9条除いて「国民に改憲慣れ」させる戦術からです。この集い3万人から、草の根有効な統一的反撃を！と祈るばかりです。

安倍中東外交とイスラエル

重信 房子

1 IS問題から見た安倍首相外交

2015年1月の安倍首相の中東訪問は米国・イスラエルとの同盟を宣言する場となった。とくにそれはISをめぐる動きによって鮮明となった。安倍首相は昨年ISに拘束された邦人人質の解放に関する水面下の交渉が行われていたことを知っていた。にもかかわらず人質や家族の個人責任に帰したまま国の首相として対応を怠った。安倍首相は状況を軽視したばかりか挑発的行動に終始した。

その第一は、人質の命に配慮することなく、エジプト・カイロ演説で、「2億ドル支援」に関し、ISに対しわざわざ闘う意志をぶちあげたことである。これが、「待ってました」とばかり機をうかがっていたISの最後通告を許し、苛烈宣伝キャンペーンと人質殺害の引き金となった。のちに人質のいる条

件下、難民支援など2億ドルは軍事的支援なのに、なぜあのようにISと闘う支援のように表明したのかと批判されると、「テロリストの要求を付度する必要なし」と開き直った。これは論理と責任のすり替えである。首相として国民の命の責任が問われたことに答えていない。

そして第二に、自身の「エジプト・カイロ演説」がISに逆にとられ、「2億ドル要求」されると、メンツをかけて慌てた対応に終始した。エルサレムでイスラエル国旗と日章旗を背に記者会見を行ったことである。外務省が愚鈍か意図的にか、シオニストの手中に踊った対応であった。エルサレムは今現在も「占領地」として国際的にイスラエルの撤退が求められている。そのためどの国の駐イスラエル大使館も、イスラエルがエルサレムを首都宣言しても

代表部をエルサレムに置いていない。日本大使館も他の諸国同様テルアビブにある。イスラエルはエルサレムでの会見をなし崩しに行かせてきた。ネタニヤフ首相と共にイスラエル国旗を背負って「テロとの闘い」を宣言した安倍首相に、パレスチナ・アラブの人々は驚いたでしょう。その一方で「パレスチナの国際刑事裁判所加盟に反対」を表明した。この立場はイスラエルと米政府の立場であり、欧州諸国はパレスチナの国際刑事裁判所加盟に賛成し、イスラエル・米政府と一線を劃している。(しかも米・イスラエルとも自国民の訴追を怖れて、この国際刑事裁判所に未加盟である。)この日本の姿はこれまで欧州諸国と足並みを揃えていたパレスチナ政策を、米・イスラエル同盟に立つことを示したばかりか、日本の外交政策の転換をも示した。

「IS騒動」の中で安倍首相が示した第三は、ヨルダンに対策本部を置いたこと。「人質重視」なら当然米・イスラエルの対IS戦争に距離を置くトルコに本部を置くべきでしょう。米・イスラエルと中東で唯一戦略的同盟の下で生き延びてきたのがヨルダン王制である。このヨルダンに本部を置くことは、日本があからさまに対IS米主導有志連合の最前線にくつわを並べたようなものである。ヨルダンのみが唯一(北アフリカを除く)中東アラブ諸国でイスラエルと国交を持つ国であり、国内反体制派の動きを米・イスラエル諜報機関の助けを借りて何度も抑え危機を乗り切ってきた国である。

こうした安倍首相の一連の行動は、随所で「米・イスラエル寄り」を鮮明にし、彼らの戦略と同盟した今後の日本を誇示した形となった。なぜ、歴史的にも中東の植民地支配に直接関係のない日本が、植民地支配に責任ある米欧中東支配の一翼に立つのか？ ISのみならず、アラブ民衆にもそのように映ったのは、まちがいない。

また今回の「邦人人質事件」に対する対応も、これまでの日本政府の「人命尊重」に基づく対応から明らかに転換し、紛争当事国である「米国方式」となった。つまり、米国は各地で紛争軍事当事国であり、自国民がその政策によって人質にされても見殺し止むなしという立場である。しかもその米国大統領でさえ、ジャーナリストとして現地に行った後藤さんの死を悼んだ。較べて日本政府は後藤さんを「蛮勇」と批判し、家族に言葉をかけるどころか面会も拒むという仕打ちに終始した。さらに日本政府はカメラマン、ジャーナリストのシリアへの取材計画

を知ると本人のパスポート使用を禁止し、返納させた。これらの動きは国民の個人の自由な判断、行動への介入であり、また統制である。個人が勝手に判断するな、政府に従えといったやり方である。

こうした国家主義的手法で、安倍政権は反対意見を無視し、御用諮問機関で飾りつけては、「秘密保護法」、「集団的自衛権」、「自衛隊派兵」とその恒久法制定を企み、さらには憲法改正まで進めようとしている。「主権在民」よりも国家意志を人間社会の第一義ととらえる国家主義は、その手法において、全体主義的偏向を孕み、狹隘な民族排外主義で国民を動員しようとする。安倍首相の危険な点はその国家観に立つ「国家」と「自分」を同一視し、「自己のメンツ」を「日本のメンツ」として行動したことにある。その結果今も海外に居る日本人の命が政治の道具にされる危険を引き起こしている。

2 日本の中東外交と中東の変化

安倍政権になって以降、おっぴらなイスラエルとの戦略的同盟が進んできている。武器輸出三原則を緩和し、米ばかりかイスラエルとの軍事技術共同開発が可能ように変更している。中東で唯一核兵器を保有するイスラエルの原発企業「マグナBSP社」は日本の原発管理を請け負っていて、この分野でも日米原子力協定改定交渉2018年にむけた共同がうかがえる。今回の安倍首相中東訪問には26企業が同行し、役人共々約百名の大名行列であったという。三井・三菱商社から三菱重工、日立製作所、東電設計まで加わっている。

2014年5月のイスラエル・ネタニヤフ首相訪日にさかのぼれば、ネタニヤフ政権の国際法無視の占領支配を脇に置いて、「技術開発」から大量の「人材交流」拡大を約してきた。今回の安倍訪中東に合わせて、ネタニヤフ政権は1月4日に日本政策を閣議決定している。そこでは日本との経済協力を大幅に強化し、新たに大阪に貿易事務所を設置し、日本への年間輸出を2020年までに現在の5割増の11億ドルに増やすこと。科学技術宇宙分野の共同研究の予算も5割増して、研究者の連携を強化する。日本から500人の若手リーダーを3年間の間に招くなどと決めた。当然さらに非公開の共同も決定されたはずである。人口818万人の小国イスラエルの日本との軍事・情報など含む宇宙先端技術開発強化が米国も含めてどう進むのだろうか。

日本はこれまで決してこうしたイスラエルとの共

同は行い得なかった。こうした変化には中東をめぐる歴史の変化と、日本の「国益外交」の変遷がある。日本の中東政策は1973年の第四次中東戦争のアラブ産油国の石油供給制限「石油危機」を教訓として転換してきた。これまで敗戦後一貫して米外交に従属していた日本が、73年11月、はじめて「独自」の日本の中東外交——イスラエルの占領地返還要求——の道を歩みはじめた。米国の中東外交よりも「親アラブ」といわれる「国益」石油外交を中心に据えた政策に転換したのである。田中政権の時であった。（この時、日本ばかりか欧州にも同様の動きがあった。こうした動きに対して当時の米國務長官キッシンジャーは、はじめて「先進国サミット」を提唱した。冷戦下、反ソ反共戦略を第一とし、資本主義国同士の矛盾は政治権力で調整すべきを教訓とした。以来「先進国サミット」は多角的役割を負って継承された。）

今回の一連の安倍首相の行動は、明確に米・イスラエル戦略同盟に沿って中東政策を図ることを明示した。73年以降は米政府の圧力を怖れつつも抗し、通産省（当時）の行政指導の下で「護送船団方式」と皮肉られながら石油戦略外交をうちだした。そしてイランには三井系、イラクには三菱系企業を配置し、エネルギー戦略の国策路線を引いた。

こうした「国益」の経済活動に政治も照応して当時の中東における「アラブ—イスラエル対立」に対しても「PLO承認」などアメリカ・イスラエル同盟と距離を置いた政策をとった。当時70年代、80年代は厳しいアラブ・イスラエル対立の時代である。アラブ側は交戦停戦下にあるイスラエルとの和平に関しては「包括的和平交渉」を主張し、イスラエルは各国と「個別直接交渉」を主張して交渉も成立していない。「包括的和平交渉」とは対イスラエルでアラブ諸国が統一的に一致して当たり、まず占領地返還から求めている。この「包括的和平路線」を逸脱して「個別直接交渉」に向かったのが78年のサダト・エジプト大統領であった。アラブ諸国はエジプトと国交断絶して裏切りを糾弾したが、サダトはイスラエルとの国交を樹立。その恨みから81年、自らの将兵によってサダト大統領は爆殺された。

また「アラブ・ボイコット」が厳しく適用されていた。1945年のアラブ連盟によるパレスチナのユダヤ人に対する経済ボイコット決議に由来している。「イスラエル建国」を経てアラブ連盟にボイコット委員会が設置され、国として認めていないイス

ラエルとの取引や関係のある企業に対してはアラブ側で取引や活動をさせないという禁止措置。たとえばイスラエルで販売しているコカ・コーラはアラブ諸国では販売できずペプシコーラがある。イスラエル入国スタンプのある旅券を持った者はアラブ諸国に入国することはできない、といった制約である。（「イスラエル・ボイコット」とも言う。）日本企業は日本政府の行政指導の下で、アラブ世界中心の商業活動を展開していた。

1979年、イランにイスラム革命が起きた時も日本は米国と同調せず、パーレビ王政に代わって政権の座についたホメイニ師らの政策と協調した。そして70年代から長期戦略的な石油基地建設のパートナーとして、イラン・日本合弁事業「I J P C（イラン—ジャパン石油化学）」（三井系企業）で建設中の石油プラントの利権を維持してきた。（このI J P Cプロジェクトは、イラン・イラク戦争の被害から三井側は合弁解消を望み、90年2月1300億円の清算金を払って撤退した。日本側の総損失額は3000億円といわれている。しかしその後も日本はエネルギー戦略として「日本開発原油の比率を高める」べくイランとの独自外交を捨てなかった。）

しかし東欧崩壊・湾岸戦争・ソ連崩壊で中東の様相が大きく変わることになった。冷戦の「東西対立」の中で中東は米・ソの「力の均衡」の最前線であった。この「力の均衡」の時代が終わり、資本主義が地球をおおう体制にかわると、90年代は「南北問題」の方が露わになった。中東においてもかつてのソ連の同盟国は軍事的にも経済的にも「力の均衡」を克服した自立的な国造りが求められた。これまでの国家社会主義的な経営がうまくいかず、イスラエルとの対峙を強いられのまま、バアス党などの世俗的政権は権力維持のための強権的独裁を強めた。

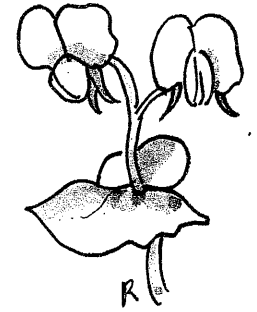
一方のイスラエルは米国の経済的軍事的後ろ楯の下で「力の均衡」論に固執し、核独占の下で「抑止力」の名でさらに軍事国家化し、パレスチナ支配中東支配は変えなかった。こうしたイスラエルの強権と弾圧は「第一次インティファダ」（87年12月）を激化させ、パレスチナ民衆蜂起は何年も続き90年代まで激しく恒常化した。イスラエルはこのインティファダを終わらせるために、その活路をこれまで「テロ組織だ」として交渉相手として認めていなかったPLOに求めるようになる。PLOもまたソ連・東欧崩壊後の新しい条件の戦略を模索した。そして両者が秘密裡に交渉していたことが93

年9月「オスロ合意」として明らかになった。唯PLOを交渉相手として認めさせるために、パレスチナ人の帰還の権利・占領地返還や国境、エルサレム問題などの中身を棚上げにしまった。そしてこれまで存在すら認めなかった占領者「イスラエル」を国として認めた。エドワード・サイドやPLOカドゥミ政治局長、PFLP、ハマスら、また私たち当時の日本赤軍も当然「オスロ合意」に反対し批判した。（当時サイドらが批判したとおりのパレスチナ自治区は牢獄のごとく、そしてパレスチナ人を分断したままだ。）

この「オスロ合意」はアラブの「統一的立場」も「包括的和平路線」も破壊した。かつて「裏切り」と糾弾されたイスラエルとの「個別直接交渉」に当のパレスチナの、PLOアラファト議長らが進んでしまったのである。「アラブの大義」の名の下で覆い隠していた各国・各階層の利害をむき出しにした。このパレスチナのイスラエルとの「直接交渉」に横手を打って続いたのはヨルダンである。これまでも米・イスラエルと秘密に会談したことを暴露されていたヨルダン王は、93年10月からヨルダン・イスラエル和平に踏み切り、94年に平和条約・国交を開いた。

こうした変化は「アラブ・ボイコット」も緩和させた。国家を前面にして「パレスチナ支援」という形をとりながら、あるいはダミー会社を使ってイスラエルへの投資・企業活動がめざされるようになった。日本でも小泉政権時代「平和と繁栄の回廊」構想のプロジェクトが進んだ。（パレスチナ側から見れば、このプロジェクトは占領問題が解決されず、イスラエルの産業の下請けや労働力として固定される構想という批判はあった。）こうした冷戦崩壊後の変化の中で、中東における「イスラエルの安全保障」にとって、シリア・イラクバアス党政権の脅威は弱まり、イランの存在が重視されるようになった。

イランはソ連の同盟国ではなかったが、イラン革命以来シリアとは同盟関係にあった。パーレビ王政の時代から米欧の原発企業がイランに売り込んだおかげで、革命後はロシアの協力によってイランの原子力開発能力は高まっていった。2002年、イラン中部ナタンズやアラークで秘密に核開発が行われている核疑惑が暴露された。こうしてイランは「イスラエルの安全保障」「サウジアラビア湾岸諸国の脅威」として焦点化されていった。国際世論は操作されイスラエルの核兵器保有は黙認する一方で、イ



ランの核開発は「中東第一の脅威」となった。そして2006年以降次々とイランへの「経済制裁」が発動された。

しかしこの時には国際石油開発（のちの日本政府出資の「国際石油開発帝石」の母体の一つ）など日本企業はイラン政府と2004年契約を結び、イラン西南部アザデガン油田の開発にすでに入っていた。日本も経済制裁に加わるよう米国から再三の圧力を受けた。日本の権益あるアザデガン油田事業からの完全撤退要求である。日本政府は継続の方途を探りながらついに2010年、この国策会社も撤退を余儀なくされた。結局経済的「国益」よりも、米国との安全保障の「国益」を選択したのだった。この出来事が、冷戦後の中東における「アラブ・ボイコット」の弱体化と併せて日本が中東戦略を再考する節目になったと思う。

中東における「国益」は、結局米国との同盟第一に選択を強いられる。それなら親米産油国と結びつつ、ユダヤ資本、シオニズムのアメリカに守られているイスラエルとの科学技術協力を拡大していくことが安定した「国益」の一つにつながるだろうと。そしてこれまでの日本の中東政策、イスラエルの占領支配や国際法倫理を重視していた外交は、徐々に小さく変化していった。結局米外交と相対的独自に築いてきた道を修正して、米・イスラエル寄りの政策へと転じていった。さらにこうした「国益外交」は、安倍政権になるとODAに至るまで規定を変更しはじめた。「ODA新大綱」は「集団的自衛権」の行使容認や「武器輸出三原則」撤廃に並ぶ「3本の矢」と位置づけ、「積極的平和主義に基づきODAを戦略的に活用する」として軍事的な用途にも道を開こうとしている。

安倍首相の「国益外交」は米政権を補完しながら自衛隊の海外派兵を地球大にし、恒久法としていく戦略的方向と軌を一につに、日本独占企業の権益・利益のために税金を外交に配置していくことにある。

こうしたやり方は「人道支援」一つとっても、米の軍事外交を補完する結果となる。

3 イスラエル右派の危険な日本工作

イスラエルのネタニヤフ首相は、自ら政権を崩壊させ、任期2年を残して3月総選挙に打って出た。当然にも総選挙は自らの権力基盤を安定させるための手口であり、3月18日、総選挙でネタニヤフのリクード党が第一党を確保した。世論調査で劣勢を予測されると、米国共和党と組んでオバマ政権の対イラン核問題協議を米議会で批判してみたり、自分が政権に戻ればパレスチナ国家は樹立させないと煽ったりした。その結果30議席を得て第一党を確保したが、リクード党が増えた議席分、極右が減議席となったという。ネタニヤフの危険で陰謀に満ちた行動は、ISと同様中東を混乱と戦争に陥れている因子である。彼は昨年ガザ空爆虐殺・西岸地区での過剰弾圧に示されたように、パレスチナ人に対して「民族浄化」政策を貫くことで世論を操り政権を維持した。

このネタニヤフ首相が、日本をシオニスト・ユダヤ資本の利権の場にしようとするという記事がイスラエル日刊紙「ハアレツ」（7万部発行、シオニストリベラル紙）に2月掲載された。しかもその記事は数時間後に消去され、アーカイブからも消されたという。この件について「選沢」3月号に短く載ったが、ジャーナリスト・翻訳家の佐藤雅彦氏がこの記事の全文を入手し解説、転載している（「国際シオニスト賭博ビジネス『日の丸』狙撃戦略」「紙の爆弾」4月号）。

それによると、「ハアレツ」の記事の中心テーマは「ネタニヤフはイスラエル国民の為に働いているのではなく、国際シオニスト・アデルソンの為に働いている」というもの。国際シオニスト・アデルソンとは世界最大のカジノ企業「ラスベガス・サンズ社」の主で米国籍ユダヤ人である。「ラスベガス・サンズ社」は2013年の総収入137億7千万ドルで世界一。ラスベガスのみならずシンガポール、マカオでも事業展開している。アデルソンは共和党のパトロンで、キングリッチやロムニーの選挙資金を支え、ネタニヤフのパトロンでもある。佐藤雅彦氏の文によると、このアデルソンはシオニスト幹部たちとの会合でこんなことを述べている。「私が思うに、聖書には民主主義のことなど一言も触れていない。イスラエルが民主国家であれ、などという神

託も皆無。イスラエルは民主国家を目指していない。いいじゃないですか、それで」と。この男、あり余る金をネタニヤフら右派シオニストの権力維持に注ぎ込んできた。

07年には、無料新聞の大衆タブロイド「イスラエル・ハヨム」を創刊し、ネタニヤフ、リクードの宣伝紙とした。イスラエルの新聞読者の40%が読むという。労働党議員らが中心になって、一方的なこのリクード洗脳無料新聞を問題にし、大新聞の無料配布を禁ずる法案の議会提出が委員会で決定された。この決定にネタニヤフ首相激怒。この時、この法案提出可決に賛成したのはリヴニ法相とラピド財務相。二人はその前にもネタニヤフの提案した「イスラエルは民主国家であり、ユダヤ国家でもある」と規定するユダヤ国家定義法案提出に反対した。ネタニヤフはこの非リクードの大臣二人を更迭し、国会解散に打って出たのである。こうした政治攻防の中で、「ハアレツ」が掲載したというこの記事のタイトルは「日本政府高官が証言——ネタニヤフは私にジェルドン・アデルソンのカジノに進んで特権を与えてくれと頼んできた」というもので、記事要旨は以下である。

「2014年2月、ジェルドン・アデルソンの所有会社であるラスベガス・サンズ社が東京で劇的記者会見を行った。日本のカジノに百億ドルの資本投下を行う用意があると。日本が2020年オリンピックが決まったことで、カジノ開帳もはじまるだろう。世界の第二のカジノマーケットに日本がなることを期待しての会見。この記者会見で、アデルソンは日本に何か所かの事務所開設と雇用も宣言した。この会見の3カ月後2014年5月、ネタニヤフ首相が訪日した。公式には『経済対策を目的とした訪日』と宣伝されたが、ネタニヤフは日本政府のトップレベルのある高官に『カジノ建設に特権的な法的優遇を図ってジェルドン・アデルソンに便宜を図ってほしいのだが、これについて内緒で会って相談したい』と頼んだという。この高官は異常な要求にびっくりしてただちに断った。あまり驚いたので、イスラエル首相がまだ日本に滞在中なのに、ネタニヤフから要求を突き付けられたと同僚たちに語ったほどである」という記事。

そして続ける。「ベンヤミン・ネタニヤフは一体誰の為に働いているのだ？ 彼が指導する国家のその国民の為か？ それとも海の彼方の異国に住む大物のパトロンの為か？ 無料新聞『イスラエル・ハヨム』の権勢を制限する法案の国会提出が議決されて

わづか何日もたたないうちに、ネタニヤフは明白かつ緊急な理由など何もないくせに自分の政府をぶちこわし国会を解散させた」と記事は批判している。

この記事が削除されたのはアデルソンの圧力より報復を怖れたニュースソースの「日本人高官」が記事の抹消を懇願したためであろう。イスラエル・シオニストは宇宙・軍事技術分野ばかりか、カジノでも日本に浸透し、草刈場としようとしている。日本のカジノを推進しようという勢力はシオニストと組み、または踊らされて悪徳に手を染めようとしている。こうした米・イスラエル・ユダヤシオニスト資本をめぐる動きが同盟を結び、今日のイスラエル旗と日章旗を背に、ネタニヤフと共に「テロとの闘い」を宣言する「安倍中東新政策宣言」に結実している。

再び政権に着いたネタニヤフ首相は国際法無視・国家を私物化し、シオニスト右派路線によって「大イスラエル主義」を貫くだろう。つまりパレスチナ国家を認めず、占領地は返さず、入植地を拡大し、くり返しパレスチナ人を弾圧虐殺する道だ。「多民族国家」であるイスラエルの現実を無視し、「イスラエルはユダヤ国家」と宣言し続けることによって、システムチックに他民族・他宗教徒を「浄化」する。その姿勢は異教徒・異宗派ムスリムをも安易に殺す

ISのテロルと好一対をなしている。ISとネタニヤフ政権の動向は、中東をますます混迷させる原因となる。

安倍首相の選択した米・イスラエル同盟に加担する中東政策は、日本を戦争加担へと進める道であり、不必要にアラブを含むアジア民衆と敵対する道である。今21世紀の危機管理としても国際政治外交としても、イスラームを理解し、シオニズム・イスラエルを理解することは、とりわけ大切な事柄であると思う。
(3月30日記)

128号の誤植の訂正とお詫び

- 2頁後から2行 全行→聴力の検査向きあう吾耳は
斥候のごとく鋭くかまえる
- 3頁左列下から11行 「小寒」→「小寒」
- 3頁右列2行下から17行 「日誌」→「日誌」
- 3頁右列下から3行 暗合状→暗号状
- 7頁右列下から12行 再開→再会
- 10頁左列2月10日の3行 一ヵ月→一週間
(布団は一ヵ月、シーツは一週間)
- 12頁右列下から6行 核心→核心はそこにあるのでそれを
- 15頁左列下から5行 矯正→強制
- 18頁右列最下行 衛星問題→衛生問題

4月14日高浜原発運転差止め仮処分決定に拍手をおくる

森本 忠紀

「この目にて歴史の瞬間見届けん」

福井地裁に人々寄り来

今か今かと待ち構える人々の前に走り出てきた人の手によって広げられた巻物にはっきり書かれていました。「司法はやっぱり生きていた」「司法が再稼働を止める」やっつー！やっつー！その瞬間大きな感動がその場のすべての人々によって共有されました。雨の降る福井地裁のまん前に挙がる大きな歓声拍手 福井地裁で高浜原発運転差止め仮処分の決定が出るぞという知らせをあらか



じめ聞いた時から奈良の仲間たちと車で福井地裁へ行く相談をしていました。この決定をくぐす樋口裁判長をみんなで支持し称えたいという気持ちでいっぱいでした。3・11のフクシマ原発事故以来、この国ではフクシマがあまりにもないがしろにされ、踏みつけにされてきたことに対して皆どれほど怒っていることか。いくら声を挙げようと原発再稼働だ、原発輸出だという安倍政権の反人民政策がその声を打ち消し、フクシマなんてなかったかのようにされてきたことに対して、反撃の一矢報いる又とない大きなチャンスです。当日地裁へ駆けつけ決定を盛りたてようと、期待にぼくたちの胸は高鳴っていたのです。この決定をフクシマの人々と分かち合いたいという思いが胸を占めました。フクシマの人々にまず伝えたい原発裁く命令くだる 地裁前に集まった300人ほどの人のなかには田川さんや新開さん、大阪のキューピットおばさんなど親しい友人はじめ反原発闘争で知りあった顔馴染みが大勢来ています。

でも喜びの瞬間には知った人も知らない人もありませんでした。思いはみな一緒。人と人の垣根がなくなっていました。

原発に司法くさせる美断を

喜び互（かた）みに見合す笑顔

高浜は2月に『住民の、住民による、住民のための説明会』が『若狭の原発を考える会』の主権で催されたとき行ききましたが、海と緑がきれいな、とても景色のよいところです。普段ぼくたちが見慣れている景色は殺伐として、少しも心和ませてくれないことに今さらのごとく気がかされて驚きます。それなのに原発の存在それ自体がきれいな景色を殺してしまっています。原発がなくなればきれいな景色も本来の命を取り戻すことができます。同じように原発がなくなれば原発地元地域も本来の命を取り戻すことができます。原発事故が起きれば無論、大きな被害を蒙りますが、そうならなくとも地元地域は既に地域としての大事な命を麻痺させられているのではないかとぼくは思います。交付金減額になって本来の命が麻痺状態になっているのではありませんか？経済はどうなる？という反論は原発依存症が言われることであって、そこには地域本来の命の輝きはありません。それは「よそもん」の無責任な言い草であること重々承知しています。出過ぎた発言お許しください。でも、ぼくにとっては決してよごとではありません。生れ育った大和高田市に住みながら、地域として持っていた命の輝き、温もりといったものがどうしてなくなってしまったのかといつも疑問を抱いているからです。日本列島の各地に原発が作られていったのと同じ時期から原発立地ではない地域、原発電力消費地域も、もしかしたら地域が持つ命が冷え始めたのかも知れません。原発をなくすという経済をどうするんだと決まって反論が返ってきます。でも、原発を5、4基も作って成長してきた経済が、列島のあらゆる地域の命を半死状態に追い込んできたのなら、原発を止めることはそんな経済から解放されることで、何より経済の面で歓迎すべきことです。この国の大多数の人が原発を望んでいないのに日本から原発がなくならないのはなぜでしょうか？原発がいらないと言う大多数の人のうち大多数の人が原発をなくすのは国や電力会社だと思っているからです。国も電力会社も国民のためを思って原発をやっているのではありません。莫大な利益を得る限られた者たちを守るために原発はあり、それは国民を犠牲にすることによって成り立っ

ています。儲かるから原発をやっているものであり、なくなれば大損害を蒙るのが電力会社と大企業ですから、国も電力会社も決して原発を止めません。では、誰が原発を止めるのか？言うまでもなくぼくたち自身です。原発を望まない大多数の国民が原発を止める当事者です。国や電力会社にやってくれるまで待っていたんでは、仮に原発がなくなっても、同じように害のある、あるいはそれ以上に害のあるものが変わりに登場するに違いありません。それにひきかえぼくたちの力で原発をなくすということは国民を犠牲にする経済からぼくたちが解放されることであり、地域が持っている命を取り戻すことです。

奈良から福井まで仲間とともに車で往復8時間かけて高浜原発運転差止め仮処分決定に立ち会いました。帰路に見た山の端に沈む夕陽の美しさは今も鮮やかに心にあります。仲間らと福井を去りて帰路に着く車窓に大きな黄金の霧暈。その夜は興奮して寝られませんでした。気持ちの高まりが短歌となって次々溢れ出てきます。4月14日にちなんで14首つくりました。そのうちのいくつかをこの報告文に織り交ぜて披露させていただきました。この樋口判決は内容からして、単に高浜原発のみならずすべての原発の再稼働は許さないという司法判断だと、弁護士さんが解説してくださりました。経済よりも優先・尊重すべきものとして明言された人格権は昨年の大飯・高浜原発運転差止め訴訟判決に続き、今回の仮処分決定においても強調されました。人格権を優先・尊重せよという判決は、原発立地地域だけではなく原発消費地域にも当てはまるとぼくは思います。経済優先によって人格権が侵されていることこそ、地域が持つ本来の命が冷え、地域の命が麻痺状態に陥っていることの最大の要因だからです。原発を止めるということは国や電力会社がやってくれることではありません。反対に国や電力会社が大本営の方で地域をがんじがらめに縛りつけ、息をできなくさせている支配力から地域が自らを解放していくところにこそ原発にさよならする希望があります。それは原発反対を掲げるだけに留まりません。息ができる穴をあげ、血流をよくし、地域が有機体としての命を甦らせていくこと、そのような闘いが原発のない未来を導くとぼくは信じています。それはまた、今回仮処分決定をくだした樋口判決に応える道であります。

再稼働司法がストップした日の

喜び大きく責任重し

幻滅の民主党

辻 邦

●大江氏の怒り「安倍は！」

5月3日、横浜市の臨海公園で『5. 3憲法集会～戦争・原発・貧困・差別を許さない～』が開催された。当日は、朝から見事なまでに晴れ渡り、汗ばむほどの陽気だった。

我々は団体でバスをチャーターし、午前9時過ぎに立川市内を出発。昼過ぎには無事、横浜市に到着した。会場の横浜臨海公園は、この時点ではまだ満員ではなかったが、続々と人が押し寄せてくるのが見えた。プレコンサートが開始される12時半には、会場スペースの八割以上が埋まっており、メインステージが開始される13時半頃には、ほぼ満員となったが、その後も続々と参加者がつめかけてきた。メインステージには大江健三郎氏や雨宮処凛氏などが登壇し、それぞれ意見表明を行った。その中で意外(?)だったのは、大江氏が「安倍は！」と安倍総理を何度も呼び捨てにしたことだ。日頃の大江氏の表現からはあまり想像ができなかったのだが、それだけ安倍政権に対して、怒りを禁じ得ないのだということが理解できた。大江氏はかなり長時間に渡って熱弁をふるったが、高齢でもあり暑さのせいもあったろう、後半にはやや語尾が聞き取れなかった部分もあった。だが、日本が置かれている現状や、迫り来る改憲と戦争の足音への危機感が強く感じられた。

何人かの文化人が登壇した後で、参加した4政党の代表からあいさつがあった。民主党からは長妻副代表が、共産党からは志位委員長が、社民党からは吉田党首が、生活の党と山本太郎とそのなかまたちからは主浜副代表が、それぞれ意見表明を行い、安倍政権の下で強行されようとしている改憲に向けての動きを非難し、警告を発した。各氏の発言内容には濃淡があったものの、それぞれ「なるほど」という部分は感じた。その中でも「戦争立法反対の一点で協働し、安倍政権のたくらみを必ず打ち破ろうではありませんか」という志位氏の発言に共感を持った。

●民主党の腰砕け

しかし残念ながら、その場ではわからなかったのだが——というのは我々の座っている位置が後方のため、遠すぎて細かいところが見えていなかった—

一意見表明の後、参加した4政党の代表が並び、壇上から会場に向けてアピールした際、志位氏が手を差し伸べたにもかかわらず、その左隣に立っていた長妻氏は志位氏と手をつなごうとしなかったのだ。帰宅後にインターネットでその事実を知り、自分のツイッターで怒りをつぶやいたが、長妻氏のツイッターには抗議が殺到したようだ。当然といえば当然だが……。

だが一方で「やっぱりな」とも思った。民主党内に少なからず改憲派がいるのは、周知の事実。例えば、集团的自衛権を行使できるよう憲法改正の必要性を訴えた元代表の前原誠司や、櫻井よしこが登壇した「美しい日本の憲法をつくる国民の会」の改憲派集会に参加し、「(改憲に) 努力する」と話した松原仁など、憲法第9条を目の敵にする議員も多い。

そんな中で『憲法集会』に参加した長妻氏の姿勢には、一定の敬意を表したい。だが、あの態度には失望した。せっかく4政党の代表が「憲法を守ろう！」の一点で一致したのに、それはないだろう。志位氏にはもちろん、社民党の吉田氏など他政党の代表や、何より主催者側に対して失礼だ。

こんなところに、民主党が何もできないまま政権の座を追われ、以降衰退の一途を辿っている理由が見えるような気がする。要するに、腰が座っていないのだ。中央政界で自民党との対決姿勢を示しても、地方ではすぐに自公と相乗りする。そんな姿勢がダメなのだ。

ちなみに長妻氏は、昨年暮れの衆議院選挙の中野駅北口での演説で、「自民党の暴走を止めるため」と共産党支持者に自分への投票を依頼し、応援者の「今朝、長妻昭さんと立ち話。拮抗しているようです。共産党のみなさま、恩を売ってください」というツイートを、自らのツイッターでリツイートしている。これは、長妻氏を応援したきむらゆい(原発ゼロを実現する会・東京の事務局長)のツイッター上の発言だ。ちなみに彼女は、同日、「中野駅北口で長妻昭さん演説中/共産党のみなさま、安倍自民党の暴走を止めるため、今回は長妻昭さん(マ)に投票して勝たせてください。今、松本文明と拮抗しています。伏してのお願いです」ともツイートしている。

ここまで来ると、もはやギャグにもなるまい。

花と闘い

重信 房子

これは、竹中栄太郎氏について書かれたある書籍の中に引用された、重信房子さんの短い文章をここに再現するものです。読者が送ってくださったのは、一片のコピーだけなので、この書名その他の詳細は不明のままです。(編集室)

栄太郎はこのころ、中東ペカー高原いびくにあった日本赤軍の重信房子と手紙を交換していた、その際、栄太郎は闘いへの連帯の印として、重信に無花果を描いた扇面一本を贈った。返礼には、重信が栄太郎をパレスチナへ招いてくれたけれど、高齢でもあり、健康を理由に辞退した。

その扇面について重信は、別冊太陽「探偵・怪奇のモダニズム」(平凡社)に「花と闘い」という文章を送って寄こした。短いので全文を引用する。

ろうそくのほのおのほのかに揺れるざんごうがわりのほら穴に花が咲いている。

その花は夜になってあたりが暗闇になると、ほのおの反射を受けて更に美しい。

扇に黒くにじんだ筆で花と書かれ、その横で扇の右にむかって、無花果が赤い口をぱっくりと開けている。

この花は「主観の花」とも言うべきもので、私の精神を照り返し、ある時はみにくくいやらしく、ある時は鮮やかで、ある時は輝いて美しい。

これが竹中栄太郎という人の送ってくれた、闘いの連帯の印、扇に描かれた花である。

無花果に花の王座を与えるこの人はどんな人だろう。

限りないヒューマニストであり排除される人を愛おしむ一徹な人かもしれない。

絵は思想で描かれ、描かれた絵はまた、思想でめぐりあう、会ってみたい人だ。

陽が戦場の高原に一瞬のうちに透明な日射しを等しくさしこむ時、闇にかわって夜明けの花が躍り出る。草原を真紅のじゅうたんであざめるけしの花や、岩場に逆立ちして咲いているあざみ、戦場は花屋敷。

ほら穴の花にかわってこれらの花が私の視界を染める時、夜の花を葬って私はまた戦士になる。



編集後記

3月には雪が降るような寒い日もありましたが、こたつ布団を引っ剥がして、クリーニングに出したと思ったら、もう、半袖に短パンの夏日です。冬からすぐに夏に移行し、日本にはかつてのような四季はなくなってしまったかのようです。桜も咲いたと思ったら早々と散ってしまって、今年、燕は飛んできたのだろうか？ 見かけなかったように思えます。重信さんの体調は落ち着いてきて一安心ですが、気持のいい春や秋はどこに？ 老体をいたわりつつ、日本の四季がひとしお恋しいと、そんなことを感じるこの頃です。

今号はいろんな投稿などもあり、紙面を削るのに手間取りました。イラストも準備されていましたが、重信さんの「読んだ本」も書きあがっていました。編集作業も結構大変ですが、スペースが足りず、嬉しい悲鳴を挙げています。次号にまわします。試行錯誤を続けておりますが、紙面づくりに向けて、読者の皆様、どうぞいろんなご意見をお寄せ下さい。投稿も歓迎です。

3月末で、クロネコメール便がなくなり、組織を届けて無料の宣伝物の発送に限って許可されるDM便が利用可能になりました。これで、これまでと手間は同じで、料金もほぼ同じ(僅かに安い)で助かりました。購読料として集金できなくなりましたので、どうぞカンパをよろしくお願いします。 Y

連絡先 〒105-0004 東京都港区新橋2-8-16 石田ビル5階

救援連絡センター気付 「重信房子さんを支える会」

郵便振替 00110-4-613941 オリーブの樹

「正誤」表

第 129 号

- ①3P上から4行目 承認を認める →承認を求める
- ②3P下から19行目 ~かつてよりも露です。→~かつてよりも露わです
- ③3P下から8行 反米反撃闘争を→反米反欧闘争を
- ④5P(3/13)右下から3行目 ジャーナリス地→ジャーナリスト
- ⑤6P(3/16)左6行目 メバンドレーダー→Xバンドレーダー
- ⑥6P(3/16)左3行~1行目「~の句と共に。それからまた今日がガサ入れの…
と考えてしまいます」(削徐)
- ⑦6P(3/19)右8行目 本部構へ→本部棟へ
- ⑧6P(3/19)右13行目、14行目 書名捺印→署名捺印(2カ所)
- ⑨8P(4/3)左下から20行目 自民党だった山崎拓氏
→自民党幹事長だった山崎拓氏(挿入)
- ⑩9P(4/9)右下から1行目 枝葉桜→枝垂桜
- ⑪10P左1行目 友人たちの検討→友人たちの健闘
- ⑫10P(4/24)右下から8行目 ~考えて船いること→考えていること
- ⑬11P(4/30)右下から3行目 こぞって紫苑の→こぞって支援の
- ⑭12P(5/3)左下から2行目 観光本のような分厚い一冊を
→観光本のような「JAPAN TODAY」という英語の本を一冊
- ⑮14P左下から6行目 爆殺→射殺
- ⑯12P(安倍中東外交とイスラエル)右1行目 ~2億ドルは軍事的→非軍事的